

2015年度 E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修

「第11回 実践交流会」のお知らせ

今年度も、下記の通り「第11回 実践交流会」を開催いたします。この会では、E.FORUMの研修内容を活かした実践や研究開発に取り組んでおられる会員の方々にお集まりいただき、お互いの経験や計画を交流しながら新しい知見を生み出すことをめざしています。

また同日午後と翌 27 日(日)午前には、全国からの希望者を対象にして、「新しい学校のかたちを考える」、ならびに「新しい家族のかたちを考える」というテーマで公開シンポジウムを開催いたします。詳細は同封のチラシをご覧くださいの上、どうぞ奮ってご参加下さい！

※ 教師をめざす学生の皆さんも、積極的に参加してください。

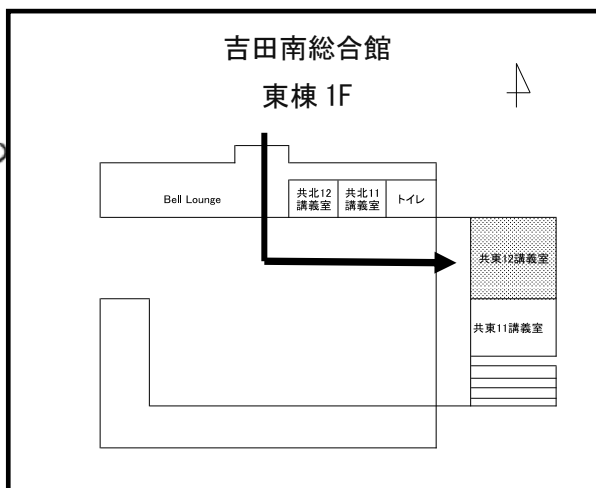
日 程：2016年3月26日(土) 9:30～14:00

対 象：E.FORUM 会員 40 名程度

会 場：京都大学吉田キャンパス（吉田南構内）吉田南総合館東棟 共東 12

お弁当代：1,000 円(参加者全員分を手配いたします。)

※参加ご希望の場合は、別紙申込用紙にて、3月8日(火)までにお申し込みください。



お問い合わせ先:

京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

fax: 075-753-3033

(電話でのお問い合わせには対応しておりません。ご了承ください。)

e-mail: e-forum@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

教育実践コラボレーション・センター主催 公開シンポジウムのご案内

「新しい学校のかたちを考える——学校を問い直す子どもたち——」

「新しい家族のかたちを考える——家族を問い直す子どもたち——」

日 程: 2016年3月26日(土)・27日(日) 会 場: 京都大学稲森ホール

※参加費無料・事前申込み不要。詳細は、同封のチラシをご覧ください。

実践交流会は、参加者の皆さまに現在取り組んでおられる実践についての簡単な資料をご用意いただき、お互いの経験を交流することを通して、明日の実践づくりに役立つ知見を得ることを目的として始まりました。「第11回実践交流会」でも、実践交流の時間を予定しています。

また同日午後と翌27日（日）午前には、公開シンポジウム「新しい学校のかたちを考える」、ならびに「新しい家族のかたちを考える」を開催いたします。お楽しみに！



＜タイムスケジュール＞

第11回 実践交流会		於 京都大学吉田キャンパス 吉田南総合館東棟 共東 12	
3月26日（土）9:00-9:30	受付		
9:30-10:00	オープニング 司会：西岡加名恵（京都大学大学院教育学研究科准教授） ・参加者の自己紹介、グループ分け		
10:10-13:45	実践交流タイム ※実践成果／実践計画の報告（15～20分）に必要な資料（A4判かA3判のもの）をご用意ください。3月10日（木）までに原版をお送りいただければ、E.FORUM事務局で印刷いたします。直接ご持参いただける場合は、50部印刷してお持ちください。 ※参加お申込みいただいた方には、お弁当（1,000円）を手配いたします。		
13:45-14:00	実践交流タイムのまとめ・クロージング		
公開シンポジウム		於 京都大学医学部芝蘭会館2階 稲盛ホール	
3月26日（土）15:00-17:30（受付14:30-）		3月27日（日）10:00-12:00（受付9:30-）	
<p>新しい学校のかたちを考える——学校を問い直す子どもたち——</p> <p>学校に来ることができない子どもたち。教室でじっとしてられない子どもたち。今、学校では、様々な意味での「特別な支援」を要する子どもたちの問題がクローズアップされています。そうした中、どうすれば学校の「秩序」を保つことができるのか、どうすれば「確かな学力」と「生きる力」を育むことができるのか、と悪戦苦闘している現状があります。</p> <p>しかし「教室」は本当にもう一度「秩序」を取り戻すべきなのでしょうか？ それとも子どもたちの「個性」を生かすべく、新しい方向へと舵をきるべきなのでしょうか？</p> <p>少なくとも「旧来の」秩序に戻そうとする動きだけでは不十分でしょう。では、「新しい秩序」とはどのようなものなのでしょうか？</p> <p>京都大学大学院教育学研究科では、教育実践コラボレーション・センターを中心として、こうした問題に取り組んできました。今回のシンポジウムでもこの問題をめぐって議論を深めたいと思います。当日は二つの「新しい」学校、「京都市立洛風中学校」と「京都府立清明高等学校」から新たな取り組みを紹介していただきます。</p> <p>子どもたちの声を聴きながら、「新しい学校のかたち」を考えてみたいと思います。</p> <p>【開会挨拶】 桑原 知子（京都大学大学院教育学研究科 教授）</p> <p>【話題提供】 須崎 貫（京都市立洛風中学校 校長） 小泉 隆平（京都府立清明高等学校 教育相談部 教諭）</p> <p>【コメント】 広井 良典（千葉大学法政経学部総合政策学科 教授）</p>		<p>新しい家族のかたちを考える——家族を問い直す子どもたち——</p> <p>今、「新しい家族のかたち」を求めて模索が続いています。これまでのように、「お父さんとお母さんがいて子どもが育つ」という家族だけが、「家族」なのではありません。離婚によって片方の親と共に暮らす子どもたち。再婚にともなって新しいお父さんやお母さんといっしょに暮らす子どもたち。そうした中、どのような家族の関わりが「子どもたちにとって」最善であるのか、私たちは真剣に考える必要に迫られています。</p> <p>離婚によって我が子といっしょに住めなくなった親（父親または母親）もいます。離婚しても親であることには変わりありません。一緒に子育てに関わりたくて「面会交流」を望む声も増えてきました。しかし離婚した夫婦にとって、これはそう簡単なことではありません。もちろん子どもにとってもきわめて複雑な関係性ですから、大きな葛藤を体験することも多いようです。では一体、子どもたちは、どういう「家族」をもとめているのでしょうか？</p> <p>「子どもを育てるべき器」としての家族のもつ力が弱まっているとも言われます。では家族が持っている「子どもを育てる力」を高めるために、私たちは何ができるのでしょうか？</p> <p>京都大学教育学研究科では、教育実践コラボレーション・センターを中心として、こうした問題に取り組んできました。「理想」の家族を求めても、解決にはなりません。では、「新しい家族」とはどのようなものなのでしょうか？</p> <p>教育実践コラボレーション・センターが進めてきた試みを紹介しつつ、「新しい家族のかたち」を皆で考えてみたいと思います。</p> <p>【話題提供】 木村 敦子（京都大学大学院法学研究科 准教授）ほか</p> <p>【司 会】 桑原 知子（京都大学大学院教育学研究科 教授）</p>	